

カリフォルニアの風

第1号 令和7年4月22日 発行
サンフランシスコ日本語補習校
校長 相澤 順



4月5日、令和7年度のサンフランシスコ日本語補習校が始まりました。

前日の夕刻にサンフランシスコの空港に到着した私は、時差ボケを感じる間もなく、サンフランシスコ校の三つの入学式（中高部、小学部、幼稚部）で式辞を述べさせていただきました。中高部新入生の皆さんには「今まで以上に時間を管理し、たゆまぬ努力と日本語で学ぶという強い意志が必要です。困難にくじけず、最後までやり通してください。」と語り、小学部新入生の皆さんには「一つ目、学校に休まず元気に来る。二つ目、先生のお話をよく聞く。三つ目、お友だちと仲良くする。」ということを話し、幼稚部の皆さんには「一つは、先生やお家の人のことをよく聞く。もう一つは、自分でできることは自分でしましょう」と伝えました。

それぞれの入学式で「新入生誓いの言葉」や「新入生歓迎の言葉」などを述べた皆さんの話からは、各自の思いがしっかりと伝わってきて、会場から大きな拍手が送られていました。式に参加した在校生の皆さんからも、新入生をあたたく迎え入れる様子が見られました。心地よい緊張感を感じながら、入学式を終えることができました。

4月12日、中高部サンノゼ校の全校朝会に参加し、次のような話をしました（一部抜粋・要約）。

「横浜から来ました。今までに2度、在外教育施設（日本人学校）で勤務した経験があります。補習校の勤務は初めてで新たな挑戦になります。本校の学校教育目標は『日本語で学び考え、国際社会に貢献する、生きる力の育成』です。生徒の皆さんにそのような力をつけていくのが、私の目標・挑戦です。

生徒の皆さんも、年度の初めにあたり、是非、補習校に通うにあたっての自分の目標や志を定めて、その実現に向けて努力していきましょう。自分自身をよりよく成長させることにつながります。

皆さんとは新たな出会いです。私はこれまで、出会ってきた人のおかげで、自分自身がよりよく成長してきたと心から思っています。ですから人との出会いを大切にしています。いつも出会いに感謝しています。皆さんも新しい仲間との新しい学級づくりがスタートしました。出会いを大切に互いに協力し合って、一年間かけてよりよい学級を築いていってください。

最後に、人との出会いを大切に、出会いに感謝する第一歩はあいさつを交わすことです。『おはようございます』『ありがとうございます』などと、皆さんには、日頃から周りにいる人や新たに会った人に気持ちよく挨拶できる人になってほしいと願います。

皆さんに出会えたことを感謝します。令和7年度、よろしく願いいたします。」

全校朝会はパビリオンで行われました。多くの生徒たちがしっかりと聞き入る姿に感心しました。

19日に中高部サンフランシスコ校でも同様の話をし、こちらも生徒たちが集中して話を聞く姿がありました。

サンフランシスコ校・サンノゼ校、それぞれの入学式で立派に「新入生誓いの言葉（新入生抱負）」や、「在校生歓迎の（一年生を迎える）言葉」を述べた児童生徒の皆さんの文章（一部抜粋）を紹介します。

・幼小部サンノゼ校 小学2年「1年生を迎える言葉」

一年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんはいまどんなきもちですか。一年前のわたしは、ほしゅう校はたのしそうだなおもって、とてもわくわくしていました。

ほしゅう校では、日本ごで、こくごやさんすうをべんきょうします。こくごでは、ひらがな、カタカナ、かん字をならったり、おはなしをよんだりします。みんなでおんどくするのは、とてもたのしいです。さんすうでは、けいさん、とけい、かたちなどをべんきょうします。休みじかんも、ともだちと日本ごであそびます。なわとびやボールであそんだり、ヤードでかけっこをしてあそびます。

わたしが一ばんすきなのは、としょコーナーです。としょコーナーには日本ごの本がたくさんあって、いろいろな本をかりることができます。みなさんもおきにりの本をみつけてください。

ほしゅう校では、うんどうかいやおまつり、ふるほんいちなど、たのしいぎょうじもたくさんあります。中でも、わたしが一ばんすきなのは、うんどうかいです。きょねんのうんどうかいでは、かけっこ、玉入れ、大玉ころがしをしました。赤ぐみがかつか白ぐみがかつかドキドキしました。

みなさん、きょうから一年生ですね。ともだちをたくさんつくって、たのしくべんきょうしてください。そして、なにかわからないことがあったら先生やわたしたち二年生になんでもきいてください。

・幼小部サンフランシスコ校 小学2年「1年生を迎える言葉」

しん一年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これからの学校生活について、ワクワクしたり、少しふあんに感じたりしていますか。これから少し、ぼくが一年生でけいけんしたことをおはなしします。

一年生では、国語でかん字をならったり、絵日記をかいたりしました。ぼくは本がすきなので、自分一人で本を読めるようになったことが、一番うれしかったです。

また、六年生との交りゆうがありました。六年生が、一年生の教室に来て読み聞かせをしてくれたり、いっしょにおべんとうを食べたりしました。

それから、いろんなイベントもありました。うんどう会、古本市、しん年お楽しみ会などです。ぼくは、うんどう会でダンスしたり、玉入れをしたりしたことが、とても楽しかったです。みんなといっしょにうんどうすることができて、ドキドキキウキしました。

これから、あたらしいことがたくさんはじまります。なにかわからないことがあれば、ぼくたちになんでもきいてくださいね。ほしゅう校でいっしょに楽しくすごしていきましょう。

・中高部サンフランシスコ校 中学1年「新入生誓いの言葉」

小学部で培った学びと経験を土台に、今日から補習校の第二章に挑みます。

ぼくは小学部一年生で補習校に入学し、「色々と楽しみだな」、「どんな友達ができるかな」、という気持ちの中、一年目が始まりました。ですが、運悪く、二年生と三年生はコロナのせいでオンライン授業になってしまい、毎週友達に会いたくて会いたくて仕方なかったです。そしてあつという間に四年生になり、対面授業に戻りました。ある授業で、グループプロジェクトでポスター作りをした時に、友達と一緒に取り組んだ経験は、仲間と協力することの楽しさと大切さを教えてくれました。意見がぶつかり合うこともありましたが、互いを尊重し、知恵を出し合うことで、満足のいく作品を完成させることができました。また、小学部最後の運動会での大玉転がしでは、仲間と息を合わせゴールを目指しました。その時、仲間と心が一つになった瞬間を、今でも鮮明に覚えています。

中学部に入っても引き続きクラスメートや在校生の皆さんと様々な行事で協力し合って学校生活を楽しく過ごしたいです。その中で、最も楽しみにしているのが、球技大会です。自分たちでT-シャツやチーム名を作れると聞いて、とても待ち遠しいです。企画から実行まで生徒が責任を持って取り組めるので、今まで行ったことのない新たな挑戦となり、たくさんのことを学べると思います。

先日、ワールドカップ出場を史上最速で決めたサッカー日本代表の森保監督はつねに選手たちにこう伝えているそうです。「個人の責任とチームワークがかけ算されて、チームは強くなっていくのです。」僕たちも個人の責任である宿題やテストなどを頑張りながら、クラスでは前向きな姿勢を共有し、そこから学年を盛り上げて、更に中学部がひとつのチームとして、全員が成長できるように貢献していきたいと思います。

僕たちにとって今日が補習校の中学部生活の始まりです。ここにいる52名の仲間たちと支え合って三年間頑張っていきたいです。

・中高部サンフランシスコ校 中学2年「新入生歓迎の言葉」

この度、二年生を代表して、新入生の皆さんに歓迎の言葉を述べさせていただくことを大変光栄に思っています。

私自身、この学校には途中から入学し、当初は不安でいっぱいでした。しかし、先生方やクラスメイトが温かく迎えてくれたおかげで、少しずつ学校に馴染み、楽しい時間を過ごせるようになりました。皆さんも最初は緊張するかもしれませんが、きっとすぐに新しい環境に慣れ、充実した学校生活を送れるようになるはずです。

皆さんの中には、補習校幼稚部、小学部と長く学び続け、補習校と現地校を両立させてきた人もいるでしょう。皆さんがこれまで努力を重ねてきたことは、素晴らしい成果です。その頑張りを誇りに思い、自信を持ってください。そして、これからも補習校の生徒として、新しいことに挑戦しながら成長していったほしいと思います。

補習校の中高部では、授業だけでなく、クラブ活動や球技大会、フードセール、文化祭など、様々なイベントが開催されます。先生方や仲間との交流を通して、多くのことを学び、クラスの絆を深める良い機会となるでしょう。時には「面倒だな」と感じることもあるかもしれませんが、せっかく与えられた環境です。ぜひ前向きに挑戦してみてください。

私自身の経験ですが、父は、私が幼い頃から、二カ国語を話せることの素晴らしさを教えてくれました。当時は、その重要性を実感できませんでしたが、最近になってようやくその価値を理解出来るようになってきました。異なる言語や文化に触れることで、視野が広がり、さまざまな価値観を理解できるようになってきたと感じています。

新入生の皆さんも、これからの学校生活で様々な経験をし、人との関わりを通して多くのことを考え、感じ取り、自分自身の学びを深めていってほしいと思います。

最後に、新入生の皆さんが、これからの学校生活で、多くのことを学び、仲間とともに成長していく姿を楽しみにしています。困ったときは先生方や先輩、クラスメイトが支えてくれますので、安心して学校生活を楽しんでください。皆さんが充実した日々を送り、楽しく補習校に通えるよう願っています。

・中高部サンノゼ校 中学1年「新入生抱負」

今日は、私たち新入生59名のために、このような素晴らしい入学式を開いてくださり、本当にありがとうございます。

今日から私たちは、サンフランシスコ日本語補習校中高部サンノゼ校の一員としての自覚を持ち、歩み始めます。小学部と違って、中学部では勉強も難しくなり、期末テストもあると聞いています。

悩んだり、くじけそうになったりする時もあると思いますが、先生方や先輩方にアドバイスをいただきながら、仲間と支えあって乗り越えていきたいです。

正直、中学生になるということにまだ実感がなく、これから始まる中学部での勉強や生活は不安でいっぱいです。

しかし、希望と期待にも満ち溢れています。

みんなで楽しく過ごし、新しいことにたくさん挑戦する、実りのある中学校生活になるよう努力していきたいと思います。

・中高部サンノゼ校 中学2年「新入生歓迎の言葉」

中高部のことについて、是非とも紹介したいのは面白い行事の数々です。一番最初に紹介したいのは駄菓子フェスです。昨年度の駄菓子フェスでは、少ないお金で日本のいろいろなお菓子が買えました。僕たちは、駄菓子フェスの日は財布のお金が無くなるまで、袋をいっぱいにしてたくさんお菓子を買いました。そしてお金が無くなった後でも、まだまだお菓子が残っていたのです。保護者会の皆様が準備してくれたお菓子の量の多さに驚きました。

次に紹介したいのはスポーツ大会です。スポーツ大会は運動会と違ってクラスメイトと一丸となって勝利を目指す大会です。スポーツ大会では、中学部から高等部までの各クラスでみんなが力を合わせ、自分たちのチームを勝利に導こうと、必死に練習しました。僕のクラスでも、昼休みに友達と練習しました。僕はドッジボールで負けてしまいましたが、友達と練習し、力を出し切るといういい経験をしたなと感じています。

最後に紹介したいのは学芸祭です。これはクラスごとにアイデアを練り上げて劇やダンスなどの発表を行う日です。最高の出来になるようにと、作戦をクラスみんなで練りました。その過程で、普段あまりしゃべらないクラスメイトともたくさん話す機会がありました。長い時間と試行錯誤を重ねて、僕らの舞台を作りました。そして、学活では二時間をかけて協力して、必要な物などを作成しました。僕たちの発表を作り上げた後、「チームで協力して何かを成し遂げるのはいいな」という思いをかみしめました。

中学部の楽しさの反対に、いろいろ苦勞することもあると思います。中学部の勉強は難しくなり、覚えることが増えます。小学生の頃になかった定期テストも始まります。宿題も難しくなります。ですが、毎週毎週一つずつこなしていけば大丈夫です。僕は振り返りタイムで友達とわからないところを教えあいました。友達と助け合ってわからないことを理解できるようになりました。

皆さん、友達や保護者のサポートに感謝しながら、中学部を楽しみましょう。心配なことがあれば、僕たち、先輩にも相談してください。共に頑張っていきましょう。

・中高部サンフランシスコ校 高等部1年「新入生誓いの言葉」

中学三年生を卒業し高校の合格発表を知らされたのは、親からではなく、元担任の桑原先生からでした。結果発表の日の夕方、ちょうどバレーボールの練習が終わった時に、先生から電話がきました。桑原先生の懐かしい声が、電話から流れてきました。先生はまず最初に、「高校入学おめでとうございます。」と言いました。この時僕は、まだ、高校の入試結果を親から聞いてなかったもので、それを聞いた時は、無意識に、ガッツポーズが出ました。ですが、その後に言われた先生の言葉で、急に体がビクッとしました。「鈴木さん、入学式の誓いの言葉をやってみませんか。」僕は、初めは「やりたくないです。」と伝えました。理由は、僕は特に頭が良いわけでもなく、人前でスピーチをする人間じゃないと思ったからです。でもその後、家に帰り夜ご飯を食べていると母から電話がかかってきて、「なんで、誓いの言葉をやりたくないの。」と言われました。僕は、「やるのが怖い、自分は人前でスピーチをするような人間じゃない。」と説明しました。しかし母は、「人生で一回しかないことだからやりなさい。せっかくのチャンス！」と言い、自分がやるというまで電話を切ってくれませんでした。最終的には引き受け、この場に立って、誓いの言葉を述べているわけですが、今考えてみれば、そんなに悪くないと思います。

中学から高校に行こうと思ったきっかけは、せっかく一年生から補習校に九年間も通ったのだから、あと二年間くらい頑張れると思ったからです。小学一年からの六年間は、親から「絶対に行きなさい。」と言われていたので、いやな時もたくさんあったけれど、学校に行っていました。また、僕の母が小学部で教員をやっているの、いやでも何でも、毎週補習校に通わなければいけません。中学に上がる試験も受ける前から僕は親に「中学試験は受けない、中学には行かない。」と言いました。「どうせ小学部と同じで、嫌な思いをしながら、通うのがいやだな。」と思っていました。でも、実際、中学に入ると、全く過去の六年間とは違うことに驚きました。中高部にはもっと、自由がありました。しかし、なんでも自分から動き出さないと、前に進めないことがわかりました。大変なことも、時としてあるけれど、自分の性に合っているのだと思います。

昨年の集中学習の球技大会では、僕たち、三年二組は、「揚げらっこ」というチーム名で戦いました。この年は、ちょうどバレーボールコートが校舎にあったので、バレーボールを種目としてやりました。僕のクラスでは、男子の中でバレーボール経験者がいなかったの、球技大会が始まる少し前に、クラスの男子を集め、どうやってレシーブやサーブをやるかを教えました。最終的には、僕のクラスがバレーボール部門で優勝しました。3年間球技大会委員をやっていたので、限られた人数や制限のある場所でやる球技大会で、チームをまとめました。僕は、力を合わせ、一致団結して戦うみんなの姿が大好きです。

高等部では、今まで通り、学校に行く、スポーツ活動で来られない日は宿題を必ず提出する、来られる日は今まで習ってきた日本語で授業を受け、友達やクラスメート、先生方と、楽しく有意義に学校での一日を過ごします。高等部に入学出来たことに感謝し、今まで支えてくれた先生方に感謝し、毎週、弁当を作って送り迎えをしてくれた親に感謝し、これからの二年間、三十三名の仲間と共に、学び、遊び、助け合い、たまに叱られたりしながら、高校生活を送っていくことを、ここに誓います。

・中高部サンフランシスコ校 高等部2年「新入生歓迎の言葉」

高等部では、より高度な日本語を学び、知識を深めていきます。授業の内容が難しくなる中で大切なのは、毎回の宿題にしっかりと取り組むことです。補習校は週に一度の授業だからこそ、与えられた課題を丁寧にこなしていくことで、学んだことを確実に身につけることができます。続けていくうちに、自分の成長を実感できるはず。また、補習校には勉強以外にも、仲間と協力しながら楽しめる機会がたくさんあります。文化祭では、クラスで一つの企画を作り上げることで、達成感を味わうことができますし、球技大会では、チームで助け合いながら競い合う楽しさを感じることができます。フードセールも、日本の文化と触れ合いながらみんなで美味しいご飯を食べて、自然と絆が深まる行事の一つです。こうした経験を通して、勉強だけでなく、人とのつながりの大切さも改めて学べるはず。

中学部のときと比べると、高等部ではクラスの団結感が少し変わったように感じます。特に文化祭では、中学部のときにはなかったクラスでのステージ発表がありました。最初は大勢の前で発表することに不安もありましたが、クラス全員で練習を重ねるうちに団結力が生まれ、本番ではクラスのみならず楽しみながら発表することができ、より仲間との協力を意識するようになりました。

新しい環境に最初は戸惑うこともあるかもしれませんが、あせらず自分のペースで取り組んでください。補習校での学びや経験が、これからの皆さんの大きな力になることを願っています。

・中高部サンノゼ校 高等部1年「新入生抱負」

暖かく、柔らかな風に包まれ、春に咲く花に命が芽吹き始めました。日ごとに暖かさを増し、春の訪れを感じられるこの良き日に、サンフランシスコ日本語補習校高等部に入学できることを心より嬉しく思います。本日は、私たち新入生のために、このような立派な入学式を行っていただき、誠にありがとうございます。本日は、希望と緊張がたくさん詰まった入学式を迎え、大人への階段を一段登ることができました。私たちは高校生になり、自分の進む道を自ら決めていかなくてはなりません。将来の夢や明るい未来に進むためにも、補習校高等部では、確かな知識とより多くの経験をしていきたいと決意を新たにしています。私たちは、三年間の中学生生活を終え、今、新しい一歩を踏み出そうとしています。高校に入ると、現地校との両立が一層難しくなり、悩んだり、立ち止まったりすることもあるでしょう。そんなときは、先生方、先輩方、ときに厳しく、また、ときに優しく、ご指導くださるようお願いいたします。これまでともに歩んできた仲間たち、そして新しく出会う仲間たちとともに、悔いのない充実した高校生活を築いていきたいと思っております。

古代ギリシャの哲学者ソクラテスはこう残しています。「世界を動かそうと思ったら、まず自分自身を動かせ」。校歌にあるように世界の架け橋となり、世界を動かすためには、まず自分自身変わる必要があります。高校生活では、何事にも全力で取り組み、日米にとどまらず、世界中を繋げられるような影響力のある人材へと成長していくのが、私たちの希望です。

一度しかない高校生活を悔いのない、意味のあるものにするために、今この瞬間から何ができるかを考え、高校生としての責任と自覚を持ち、現地校と補習校の学びを両立させるために精一杯努力することをここに誓います。最後になりますが、先生方、先輩方、そして保護者の皆様、どうか温かいご指導をよろしくお願いいたします。私たち 40 名は、サンフランシスコ日本語補習校の生徒としての誇りと自覚を持ち、実りある高校生活を送っていくことをお約束いたします。

・中高部サンノゼ校 高等部2年「新入生歓迎の言葉」

ちょうど一年前、自分も皆さんと同じように、不安と期待が入り混じった気持ちで入学式に出席していました。今日はそんな自分から、少しだけ、先輩として高校生活をうまく過ごすコツをお伝えしたいと思います。

それは、「自己管理能力」と「人とのつながり」を大切にすることです。

自分も最初の頃は、補習校の宿題に加えて、APテストの準備、現地校での課題、部活動など、毎日タスクに追われ、気づけば忙しさに息が詰まりそうになる日々が続きました。家に帰ると、目の前に積み上がった課題や提出期限が目に入ってきて、それだけで気が滅入っていました。でも、そんなときに意識してとても良かったのが、自分のやるべきことを紙に書き出し、整理し、優先順位をつけることでした。何から取り組むべきかを明確にするのです。これだけでスッと気持ちが落ち着き、余裕が生まれ、効率的に行動することができました。さらには余裕が生まれたことで、今この瞬間をしっかりと楽しむことができたのです。

それから、周りの人に頼ることも同じくらい大事だと思います。特に、心の中で抱えているストレスや不安が大きくなっていくと、つい「自分だけで解決しなければ」と思い込んでしまうことがあります。しかし、そんな時こそ、周りの友達や先生に頼ってみることで、自分一人で抱え込むよりも、思い切って言葉に出してみることで、気持ちが軽くなることもあります。周りの人を巻き込むことで、思わぬアドバイスをもらったり、自分だけでは気づけなかった新しい視点を得ることもありました。

そうやって自己管理に努めつつ、助け合いながら過ごすうちに、補習校での貴重な経験を最大限に楽しむことができたのです。忙しい日々の中でも、充実した高校生活が送れるようになったのは、こうしたコツを実践し、周りの人に支えられているからだと思っています。高校生活は、うまくいかないこともあるかもしれませんが、大変な分、きっと得るものも大きいと思います。無理せず、自分のペースで頑張ってください。

最後に、皆さんの高校生活が充実したものとなり、たくさんの素晴らしい思い出ができますよう、新たな環境でのスタートを心からお祝いし、歓迎の言葉とさせていただきます。

以上、10名の代表児童生徒、それぞれの立場での前向きな思いがつつられています。ぜひ、それぞれの考えや思いを参考にして、全校の皆さん一人ひとりが今年度の補習校での目標をしっかりと立てて、日々、努力していくことを願います。そして、よりよい学級・学年・学校づくりに仲間と協力して取り組んでほしいと期待しています。教職員全員で、皆さんを支援していきます。

保護者の皆様、今年度も本校の教育活動へのご理解とご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。